

原発 多摩市に全校避難

那須中高一貫校「無念」

2012.12.8 東E

東京電力福島第一原発事故の影響で、東京都多摩市に全校避難している全寮制の中高一貫男子校「那須高原海城中学・高校」（栃木県那須町）が今後、生徒を募集しないことを決めた。校舎の周辺は放射線量が比較的高く、生徒を集めるのが難しいという。在校生の卒業を見届けて廃校になる。（石井紀代美）

日本大震災の爪痕は、まだに生々しい。先月下旬、正門前の公道でNPOに放射線量を計測してもらったところ、地上一辺で重点調査の基準値の毎時〇・二三マイクロシーベルトを上回る〇・五マイクロシーベルト。地表の芝生上では〇・七〜〇・八マイクロシーベルトになった。

那須高原海城中学・高校の震災後の移転



在校生卒業後 廃校へ

校舎は、国が汚染状況の重点調査地域に指定する那須町の農村地帯にある。福島第一からは百キロ弱。正門から

校舎を見ると、柱や壁に亀裂が入るなど、東

翌日からバスで兄弟校

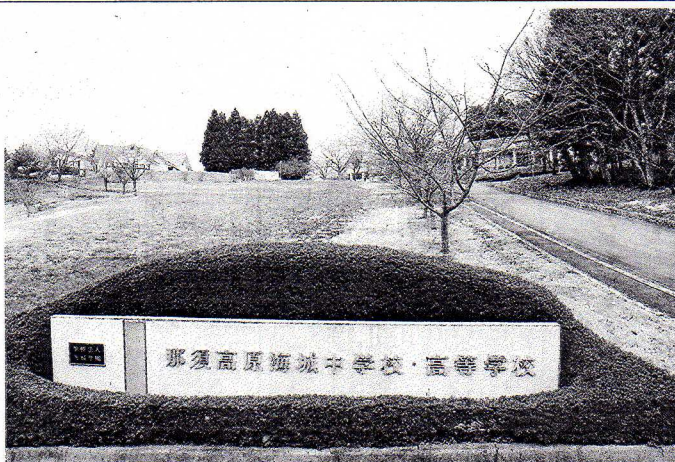
の海城中学・高校（東

を再開した。

線量基準超 除染も至難

震災後は学校生活が安定していなかったため、今春入学の新入生募集を見送った。本年度も線量低下のめどが立たず、除染をしようにも「近くに（除染が難しい）森があり、ど

こまですればいいのか分からないという問題があった」と、塩田頭二郎教頭は説明する。運営法人の海城学園は先月七日の理事会で「この先、入学者を集めて運営を継続するのは困難」と永続的な募集見送りを決めた。塩田教頭は「生徒は自然豊かな那須に愛着があり、『第二のふるさと』と言っていた。教員を含め、全員が今でも戻りたいと思ってる」と、残念がる生徒らの様子を説明。



生徒の募集停止を決めた那須高原海城中学・高校＝栃木県那須町で

「校舎が壊れただけなら、直せば済むのに」と自身も残念そうに話す。中学二年生が卒業する二〇一七年三月にも廃校になるといふ。現在、東電への損害賠償請求の手続きに入っている。

那須高原海城中学・高校 学校法人の海城学園が1991年に100周年を迎えたのを機に、東京都新宿区の海城中学・高校の兄弟校として96年に開校した。豊かな自然に囲まれた環境の中で「新しい紳士」の育成を目指している。震災前は首都圏を中心に、東海地方や九州地方からも生徒が入学。在校生は現在、中学2年から高校3年までの98人。